

R S T 結果の読み方

野田中学校へのアンケート

新井紀子先生からのアンケートです。野田中学校として、どのように答えるでしょうか。

- (1) 野田中学校では、R S T受検後すぐに、受検した各生徒の能力値・解答数・評価を確認していますか。
- (2) 野田中学校では、受検した各生徒の画面に表示されている「コメント」を把握していますか。
- (3) 生徒の評価やコメントを、その生徒の担任に周知していますか。
- (4) 生徒の評価やコメントについて、その生徒を担当している各教科の教員と共有していますか。
- (5) 読解力について、一斉指導だけでなく、「個別最適」な指導方法について研究をしていますか。その際、コメントに書かれた内容を活用していますか。

残念ながら、昨年度までの野田中学校では、「はい」と答えられるものはありません。R S Tを2年間受検はしましたが、その活用が不十分だったということです。R S Tは一人1500円かかりますが、300円分しか活用できていないのかもしれない。

R S T 受検の目的

リーディングスキルテスト(R S T)を受検する目的は、受検した各生徒の読解力の特徴から「個に応じた指導」に生かすことです。生徒の特徴について、教科を超えて共有し、予想される課題を認識することです。保護者とも共有することが望まれます。

R S T 結果の読み方

結果の読み方としては、能力値の分散を見るようにします。それぞれの生徒の特徴を把握します。正答率は関係ありません。正答率は、50%になるようになっています。重要なのは、能力値と解答数です。能力値0は、日本の中学2年生の平均に合わせてあります。

R S Tのコメントに書いてあることをやれば「個別最適化」になります。生徒は、成功体験のある読み方で、読み解こうとして失敗しがちです。文学やマンガの読み方で、数学の教科書を読もうとします。キーワードに注目し、助詞や接続詞を軽視しがちです。苦手教科ほど音読や視写が有効です。

R S Tの能力値は、小学5年生から中学3年生まで、自然に緩やかに上がっていきます。その傾きが大切です。中学生では、能力値が-0.1より高ければ、授業に参加しやすくなります。指示がわかる、何をすればよいかかわかるということです。

本校では、学習課題の「共書き」に取り組んでいます。学習課題が書けるようになると、学校に参加している意識が高くなるそうです。自己肯定感も上がるそうです。

本校では、今年度もR S Tを受検することができます。3回目となる今年度は、ぜひ、能力値の分散を見ること、コメントを活用することなどを中心として、R S T受検後に比重を置くようにしましょう。